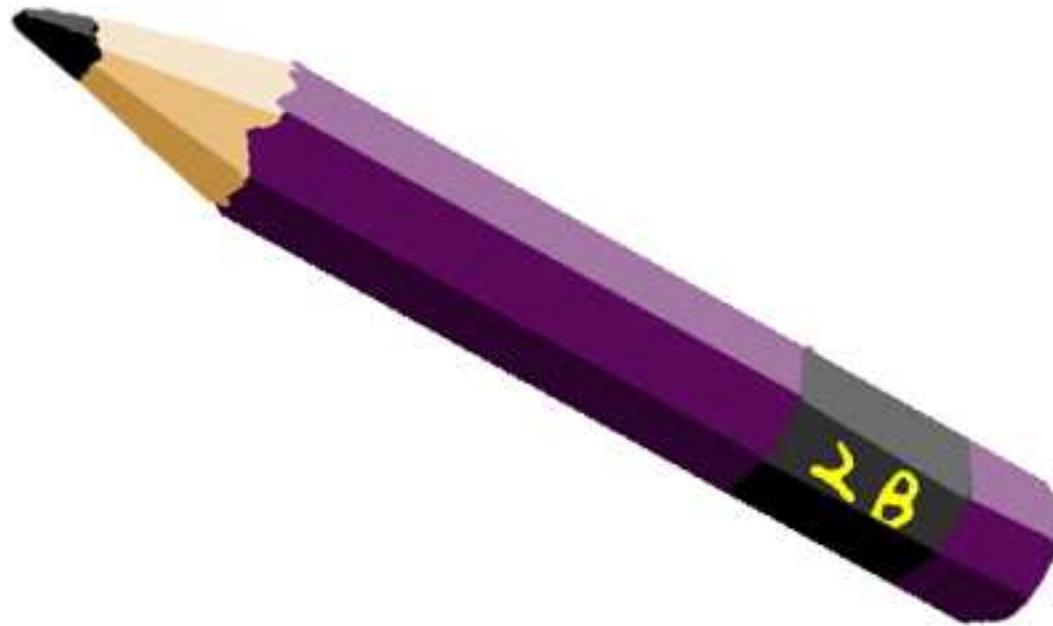


# テニスと鉛筆

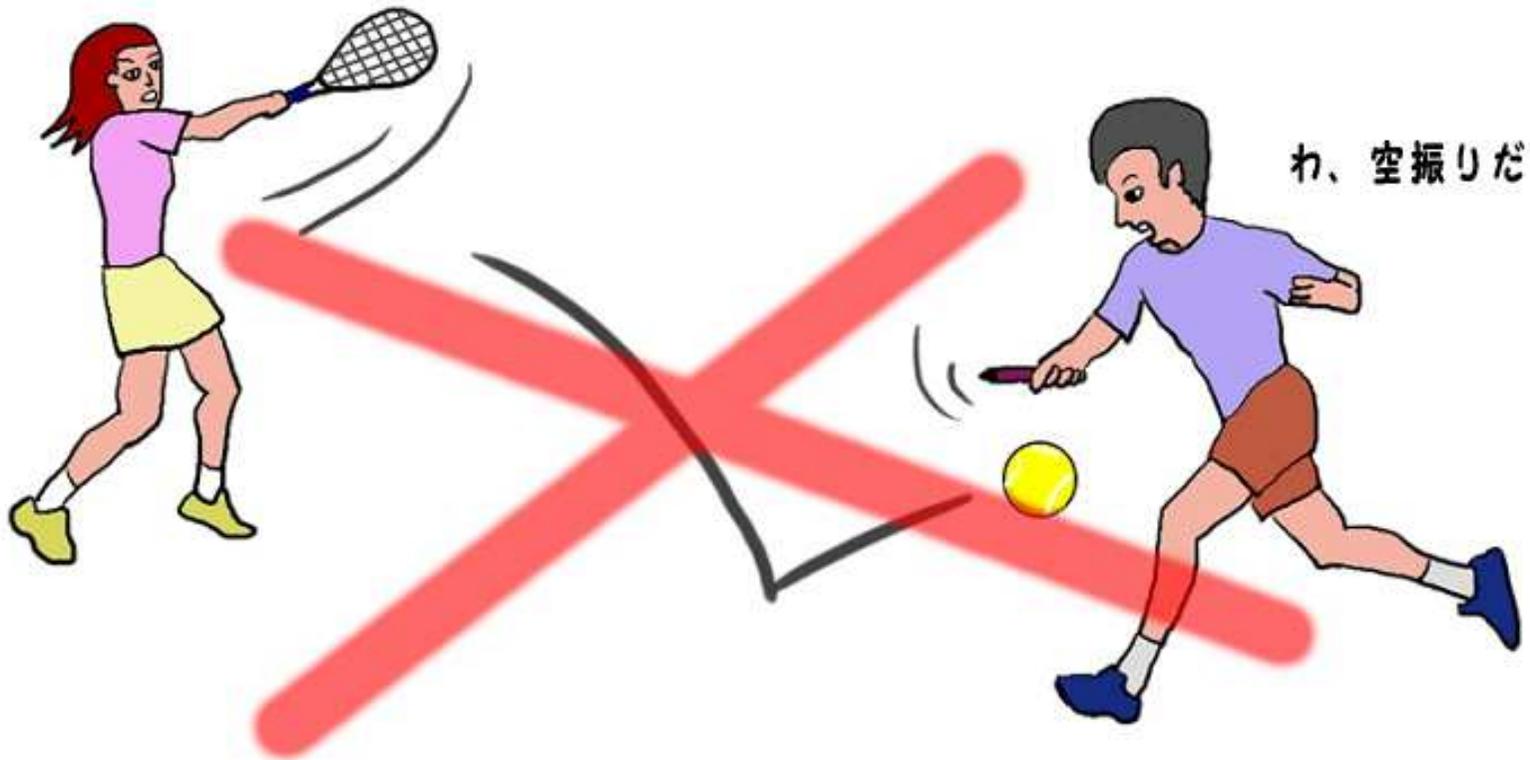


東郷 潤

ここに物体があります。



この物体を鉛筆だと認識した人は、それを鉛筆として扱います。



テニスのラケットとしては扱いません。当たり前ですね。

認識した通りに扱いますが・・・

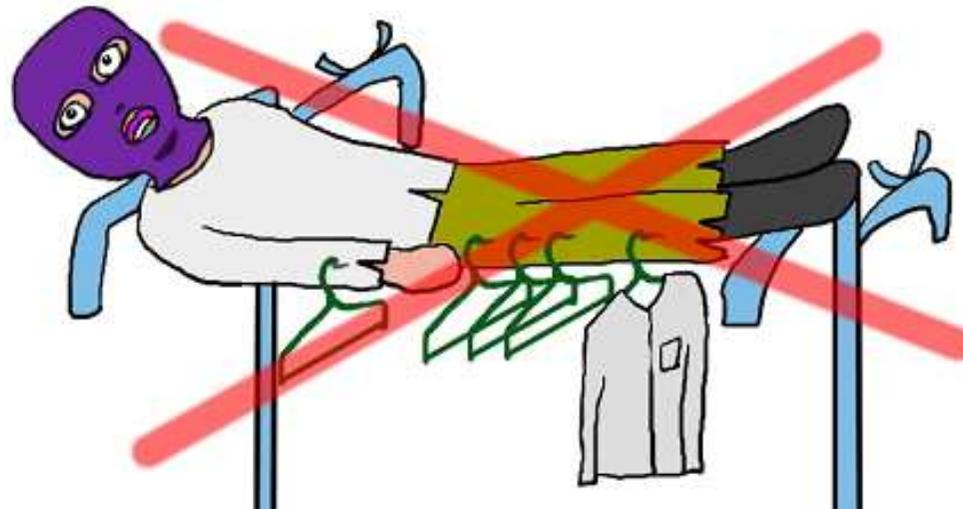


・・・その認識は間違っていることもありますね。

ここに人がいます。

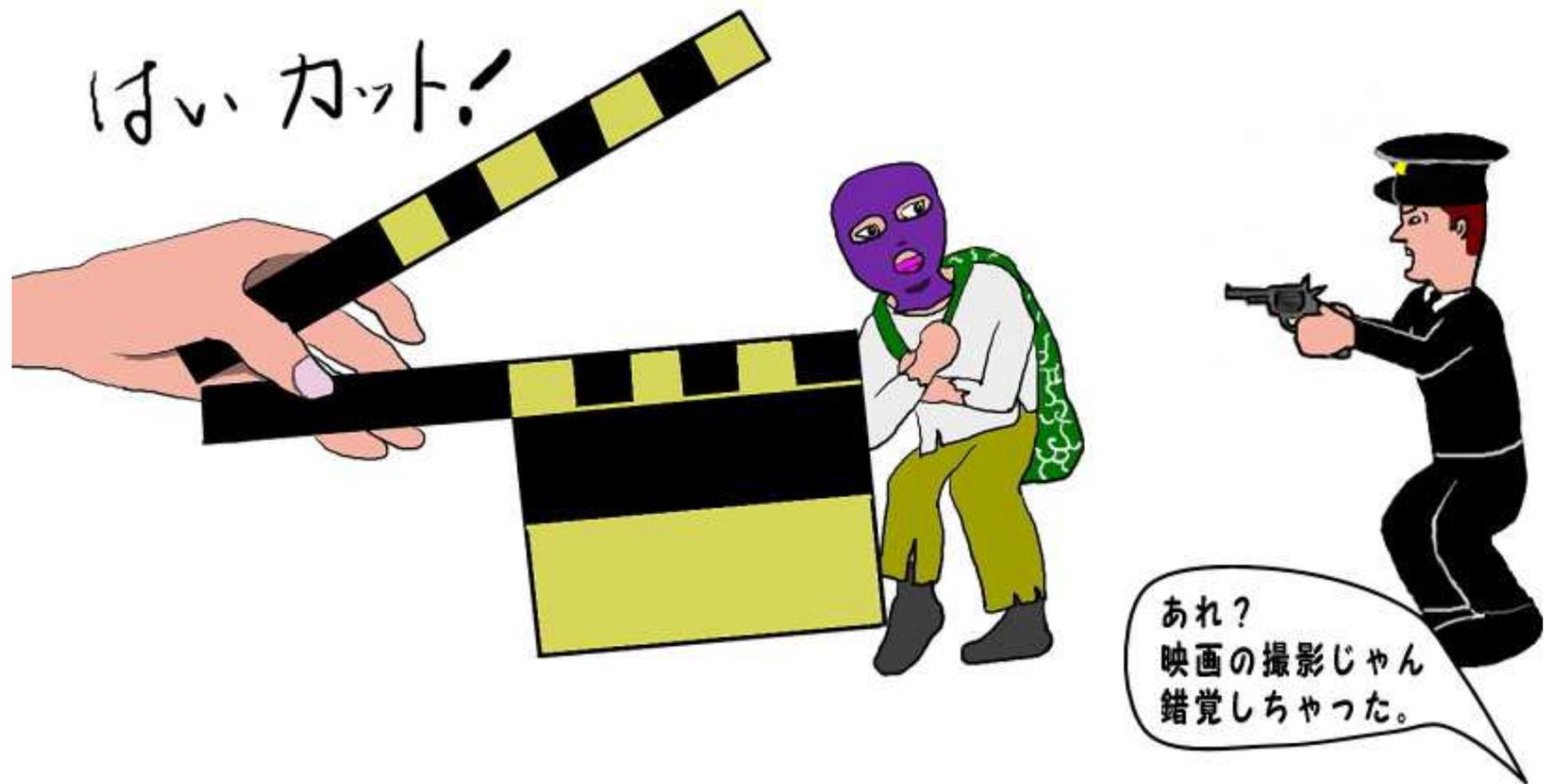


この人を泥棒だと認識した人は、  
この人を泥棒として扱います。



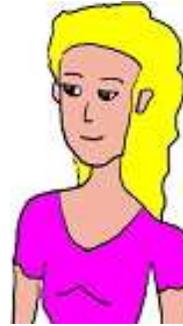
その人を物干し竿としては扱いません。当たり前ですね。

認識した通りに扱いますが・・・



・・・その認識は間違っていることもありますね。当たり前です。

ここに女性がいます。



その女性を肉体的に弱いと思ったら、弱い存在として扱います。弱いと思って、その人を強い存在としては扱いません。



これも当たり前です。善でも悪でもありません。

認識した通りに扱いますが・・・

その認識は間違っていることもありますね。

誰でも間違った認識／錯覚を持てば、その人の行動は  
的外れなものとなってしまいます。これはごく当たり前の  
事実であり、善でも悪でもありません。



## あとがき —絵本「テニスと鉛筆」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

**[www.j15.org](http://www.j15.org)**

©Jun Togo 2013